

後半が始まってから時間の過ぎるスピードが加速しているように感じます。気が付けば留學生活もあと1ヶ月を切りました。台湾ののんびりした生活や楽しい友人たちとことを考えるとまだまだ日本に帰りたくない気分です。しかし、帰国日は着実に近づいてきています。そして、卒論の提出日がどんどん近づいています。果たして卒論は書き終わるのでしょうか。

11月の台湾は、昼間は25度を超える日もあり、半そでに薄手のカーディガンくらいで過ごせました。最近徐々に寒くなってきて、厚手の上着を着るようになりました。2月に着たばかりの頃は、ダウンを着るほどでもないのに、どうして台湾人はダウンなんか着ているのだろうと不思議でした。しかし、暑い夏を耐えた身体は寒さに全く慣れておらず、少しでも寒くなるとダウンを着たくなることが、一年過ごしてみてもわかりました。台湾の冬は温かいと聞いていたので、ダウンを持ってきていません。帰国まで風邪をひかないように気を付けたいと思います。



熱々の湯圓（おもち）とかき氷のコントラストがたまらない！！

## 台湾生活

### ○授業

#### 「日中対比語言」

台湾大学の大学院の日本語文学学科の授業で、聴講生として受けています。交流会で出会った台湾大学の大学院生に誘ってもらいました。台湾人学生が過半数を占めている授業ですが、日本語で発表、討論しており、レベルの高さに驚いています。また、大学院の授業なので専門知識がない私にとって難易度が高く、理解が追いつかないことが度々あります。しかし、台湾一の大学の授業を体験でき大変よい刺激になっています。先日は、「中国語学習において苦労していること」というテーマで発表しました。難しいと感じていることを5つ取り上げて、先生や学生の皆さんで討論するという内容でした。少し緊張しましたが、ネイティブたちの考え方を知ることができ、大変よい勉強になりました。

#### 「讀寫訓練」

この授業は、中国語の文法や読み書きの授業です。毎週「聴寫（ていんしえ）」という単語の書き取りテストがあります。20問前後ですが、先生が言った単語の漢字とピンインの両方を書く必要があり、なかなか満点をとることができません。また、文章を書くことが多く、先生に添削していただけることが一番の利点です。自分で文章を書いてもあっているのか間違っているのかわからないので、先生に訂正してもらえると自分のライティング力の向上に繋がります。



### ○インターンシップ

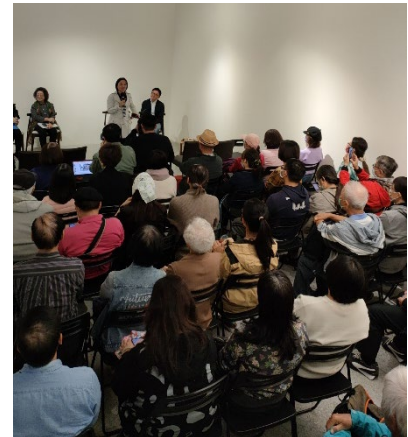
現在、台湾の歴史的建造物を保存・研究や街づくりをしている NPO 法人で無給のインターンシップをしています。週に一回オフィスに行って日本語の資料を中国語に翻訳する作業をしています。時々、土日に発表会や展示会等のイベントがありカメラ係として参加する事もあります。日本語を話せる人がいないので指示は全て中国語です。日常会話と異なり、指示は確実に聞き取らないと迷惑をかけてしまうという思いから、大変集中力を使います。また、カメラ係として行きますが、お客さんから質問されることもあります。私は答えられない事が多いのでいつもどぎまぎしています。わからないことだらけで大変ですが、とてもいい中国語の練習になります。

この NPO 団体は、主に日本統治時代の建造物の保存に力を入れているため、インターンシップ中に日本統治時代のことなどを知ることができ、歴史を学ぶことができることもメリットの一つです。ただ街を歩いていては通り過ぎてしまう街並みも、日本統治時代の面影を残していることが多々あり、最近街を見ながら歩くことが楽しいです。

普段大学に通っているだけでは、知ることができないことも学ぶことができ、このインターンシップに参加して有意義な留学生活にする事ができました。



シンポジウムの  
様子→  
←科学館でのイ  
ベントの様子



### ○JTB 台湾オンラインインターンシップ

俞先生の計らいで、新潟県立大学と合同の JTB 台湾オンラインインターンシップに参加しました。内容は、最初の 2 日間は JTB 台湾の方が台湾の旅行の現状や海外で働く事についてのレクチャーでした。最終日の 3 日目は、新潟県立大学の学生と 5 人ほどのグループをつくり、グループ発表を行いました。

私は 3 月に卒業するため、既に内定先の企業は日本の企業に決まっていますが、将来的には台湾で働いてみたいと考えていたため参加しました。実際に台湾で働いていらっしゃる方のお話をうかがえるのは大変勉強になりました。台湾は日系企業が多く、日本語が話せる台湾人従業員が多いとはいえ、台湾で働き、生活するには今より中国語力をあげる必要があります。お話しを伺えて、中国語学習を更に頑張ろうとやる気になりました。

また、コロナ禍におけるオンライン旅行についてのお話も大変興味深かったです。新しい試みだからこそ、苦勞もありますが面白いことができると思いました。とはいえ、YouTube などで無料の台湾の旅行動画が見られる時代に、お金を払ってまで見たいと思えるコンテンツを作ることが難しいとおっしゃっていたことが印象的でした。私もグループワークでオンラインツアーを企画したのですが、ターゲット層や価値あるプランを考えることに大変苦勞しました。

現場の生の声を聴ける大変貴重な機会で、将来について考えるきっかけになりました。